



令和4年11月9日

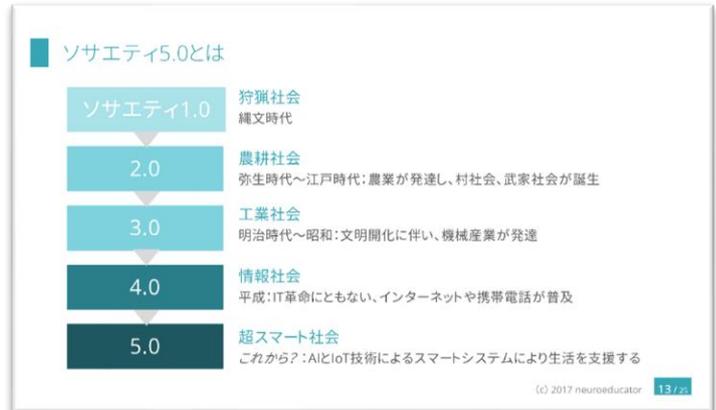
校長室から

No. 6

今回は「AIの時代」について考えます。

新学習指導要領では、プログラミング教育が取り上げられ、今後の**ソサエティ5.0の時代**に向けての準備が進められています。

学校でも、プログラミング教育に取り組んだり、タブレットの活用に取り組んだりしています。具体的には、PCのプログラミングソフトを利用した体験的なものや、**プログラミング的思考**という「ものの考え方」について、学習に取り入れています。



ソサエティ5.0の時代とは、どのような時代なのでしょう？右上の表にも、「**超スマート社会…AIとIoT技術によるスマートシステムにより生活を支援する**」といわれています。なんだかとても便利な社会になりそうで期待がわいてきます。例えば、「少子高齢化に伴う人手不足で、AIやロボットにより生産性を高めていくことができる」「家に帰ると、人間の心拍数などを分析して、よりよい部屋の温度設定をしたり、夕食のメニューを考えてくれたりする。」といわれています。しかし、**とても素敵だな、体験してみたいなという反面、人間の働く場はあるのかな、自分で考える力は衰えないのかな？**という疑問もわいてきます。人間はこれまで、よりよい生活を求めて技術を発展させたり、より高度な文化を構築したりしてきたと思います。しかし、そこには**本来中心である「人間の姿」が見えなくなってきたような気がします**。本来人間のもっている「本能」や「感覚」これは、自身の身の安全を守るものでもあると思います。その大切なものが、人間の作り出したものによって壊されていくのではないかと心配になります。

数学者でありデータサイエンティストのキャシー・オニールさんは、「**AIには英知はありません。『何が正しいのか』は、AIが決して触れられない領域なのです。**」といっています。AIは、数多くのデータを基に、素早く分析しよりよい解決策を見つけ出ししてくれると言われていますが、「**よりよい解決策**」を定義するのは人間であるということでしょう。

慶應義塾大学教授 前野 隆司さんは、「『**ディープラーニングをするAIに負けないために、人間はより深く学びましょう**』と言われていたようで面白い。そのためには、『**教えないことだ**』言い換えれば、『**型にはまったマニュアル通りの教え方を廃すること**』』といっています。つまり、「**自分で考えさせることが重要**」だと考えられているのでしょうか。さらに、「**よりよい仕事ができる人になるために、心を磨くのではない。心を磨くこと自体が最終目的で、そのために仕事もするし生活もするのである。精神性の高い心をつくることこそを、人生の目的とするのである。社会の役に立つ仕事をするることによって、心を磨くことこそを目的とするのである。**」ともいっています。

「気付く」力が衰えていくことが心配です。「何か変だな?」「これでいいのかな?」と感覚的に感じられるようにするには、**より多くの体験活動が必要ではないでしょうか?**